

手作りこいのぼり5000匹 武蔵浦和駅周辺

「わあ、こんなにたくさんのこいのぼり」「見て見て、ぼくが作ったこいのぼり」。五日のこどもの日を前に、さいたま市の武蔵浦和駅構内と周辺に約五千匹の手作りのこいのぼりがたなびき、市民の注目を集めている。作ったのは近所の保育園児や小学生ら。自分の作品が泳ぐ姿を一目見ようと見学に訪れる家族連れも多い。

こいのぼりの制作を呼び掛けたのは南区の市民やショッピングセンターなどで組織する「むさしうらわ街づくり協議会」。週末に街頭で宣伝したり、近所の幼稚園や保育園に依頼、駅前の高層マンション「ラムザタワー」の自治会(三百二十六世帯)も協力して集めた。



武蔵浦和駅構内に掲げられたこいのぼり

一日はラムザタワー前で同協議会によるむさしうらわ街づくり宣言のイベントが行われ、「障害者の社会参加をすすめる会」のメンバーが「子どもが安心して遊べる街をつくろう」など、宣言文を読み上げた。

武蔵浦和駅構内で自分の作ったこいのぼりを見つけた、さいたま市立大里小学校三年の小林晟也君(8つ)は「本物みたいにうろこを跳ね上げて作った」と出来に満足そう。息子の作品を携帯電話で写真に収めていた母親の千代さん(34)は、「子どもたちの個性が出ていて、見ていて楽しい」と話す。

協議会中心メンバーの田中和義さんは「なかなか季節感を感じられない街で、子どもたちが喜んでくれたのがうれしい。イベントをきっかけに、子どもから高齢者まで住み良い街づくりを目指したい」と話す。

こいのぼりは五日まで駅構内やラムザタワー、大里臨時グラウンドなどに掲げられる。四日にはラムザタワー前でフリーマーケットも開かれる。

【WEB埼玉ホームへ】

ニュースの詳細は埼玉新聞でどうぞ。購読申し込みは [こちら](#)
フリーダイヤル 0120-633-888

saitama-np.co.jpの記事・写真の無断転載を禁じます。
日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright 2004 The SaitamaShimbun